

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	YT	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	4 年	派遣国	イギリス
派遣大学	キール大学		
期 間	2024 年 9 月 19 日～2025 年 6 月 14 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	◎
滞在費	約 (120000) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩) で、約 (5) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	30000 円	自炊用の食品など
学用品購入費	10000 円	
交通費	3200 円	学校から市内までのバス代
交際費	10000 円	
その他	36800 円	通信費・洗濯費・旅費など
合計	90000 円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

治安はイギリスにしてはかなり良い。特に寮・スーパー・カフェ・郵便局など生活に必要なものは全てキャンパス内に揃っているため、学外へ行くことは多くなく、治安の面ではかなり安全だと思う。街へ出た場合、昼間は大丈夫だが夜間は街灯が少なく人も少ないためかなり危険とまでは言わないが気をつけるに越したことはない。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(9) ヶ月間	保険料	(93080) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	Immigration of Health Surcharge (IHS)		
加入期間	(9) ヶ月間	保険料	(164701) 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (Staffordshire/Newcastle Under Lyme)

大学からバスで約 15 分のところに、比較的大きなスーパーが 4 店程そして薬局や雑貨屋などあり学内で揃わないものは街へ行けば全て揃うような便利な場所だ。スーパーは学内よりも価格が抑えられている。また映画館やアジアンスーパー「just shop」という店があるため、とても過ごしやすい。また、バスで約 1 時間の場所には大型のショッピングセンターがあり、服なども買うことができる。

街には公共交通機関がバスしかないが、バスで約 40 分のところに Stoke on Trent 駅があり、電車に乗ってロンドンやマンチェスターまで直通で行くことが可能である。

【学業編】

1. 大学情報

大学	キール大学	所在地	Staffordshire/Newcastle Under Lyme
最寄空港	マンチェスター空港	空港からの距離	約 2 時間
空港⇄大学	(学 内 バ ス 停 → Stoke on Trent 駅 → Manchester Piccadilly station → Manchester airport 駅) *移動手段		
学生数	約 13500 人以上	留学生数	不明
学部	かなり学部数が多く細かく分かれているので、以下の URL を参考にしてください。 https://www.keele.ac.uk/study/undergraduate/undergraduatecourses/ *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	メディア学部 (ただ留学生は、学部には所属せず好きな学部の科目を好きなように履修可能であるため、所属しない) *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(1)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前			History,Media,Memory (Seminar)		English for Academic Prepose
午後	Media,Culture,and Power (Lecture) History,Media,Memory (Lecture)	Britush Culturel Studies		Media,Culture,and Power(Seminar)	

② (2)月～(5)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		Audiences:From Moral Panicis to Digital Cultures(lecture)	Sound for moving image(lecture)	Audiences:From Moral Panicis to Digital Cultures(seminar)	English for academic prepose
午後				Filmstyle:History, Theory, Thechnology(lecture) Film style; History Theory, Thechnology	

3. 履修内容

科目	Media,Culture,and Power		
履修期間	セメスター 1	単位数	15
授業内容／形態	メディア学の基礎理論について学ぶ。授業は lecture と seminar の二つに分かれていて、前者は大人数での講義中心、後者は4グループに分かれて講義に基づいたディスカッションをしたりグループワークをしたりする。課題はエッセイとポートフォリオ。		
成績	56		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	History,Media,Memory: The Presentation of the Past in Contemporary Culture		
履修期間	セメスター 1	単位数	15
授業内容／形態	歴史に関する映画や遺跡を通して歴史の伝え方や残し方について学ぶ。授業は lecture と seminar の二つに分かれていて、前者は大人数での講義中心、後者は3グループに分かれて講義に基づいたディスカッションをしたりグループワークをしたりする。課題はエッセイ2本。		
成績	66		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	British Culturel Studies		
履修期間	セメスター 1	単位数	15
授業内容／形態	イギリス文化について学ぶ。留学生のみ履修可能な授業。授業は Lecture のみ。課題は毎週の感想とグループでのイギリス文化に関するビデオ作り。		
成績	62		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Audiences:From Moral Panics to Digital Cultures(lecture)		
履修期間	セメスター 2	単位数	15
授業内容／形態	メディア理論を基に、メディアが利用者に及ぼす影響について学ぶ。授業は lecture と seminar の二つに分かれていて、前者は大人数での講義中心、後者は 2 グループに分かれて講義に基づいたディスカッションをしたりグループワークをしたりする。課題はエッセイ 2 本。		
成績	未定		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Film style: History, Theory, Technology		
履修期間	セメスター 2	単位数	15
授業内容／形態	各時代や国の映画を基に映画理論や撮影技法について学ぶ。授業は lecture と seminar の二つに分かれていて、前者は大人数での講義中心、後者は講義に基づいたディスカッションをしたりグループワークをしたりする。課題はエッセイ 2 本。		
成績	未定		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Sound for moving image(lecture)		
履修期間	セメスター 2	単位数	15
授業内容／形態	映画やドラマなどメディアにおいて、音と映像を合わせる技術について学ぶ。授業は Lecture のみで、講義を受けその後に実際にマイクやパソコンを用いて実践を行う。課題は、映像作製。		
成績	未定		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	English for academic prepose 2		
履修期間	セメスター 1 - 2	単位数	15
授業内容／形態	エッセイや論文の書き方、プレゼンテーションの仕方について学ぶ。セメスター 1 ・ 2 の通年を通して行われる。授業は Lecture のみで第一言語が英語でない全ての留学生が受ける必要がある必須科目。課題はエッセイ・エッセイプラン。プレゼンテーション。		
成績	未定		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目			
履修期間		単位数	
授業内容／形態			
成績			
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

<大学生活の感想>

大学生活に関して、一言で言うと日本とイギリスの授業形態が全く違うということに驚いた。まず、授業時間はあまり変わらないけれど、多くの授業で Lecture と Seminar の 2 つに分かれており、講義のみではなくほとんどが講義をより理解するための時間があることは新鮮だった。日本では今まで講義を受けっぱなしで終わらせてしまうことが多くあったため、インプットアウトプットの過程を通して学習内容を理解するためにとても貴重な時間だった。また、英語で授業を受けるため予習なしでは全く理解できない。そのため予習を十分に行なったり、分からないところは教授に聞いたりと積極的に学習に取り組むことができたと思う。教授方は非常に優しく分からない点は分かるまで教えてくださったり、簡単な英語に直して説明し直してくださったりした。日本とイギリスの大きな違いは課題に関する点だと考える。日本では課題を行なって点数だけが返ってくるが、イギリスでは課題に取り組む前に授業時間を用いて教授に課題の方針等について相談できたり点数と共に、教授からのフィードバックがついて返却されたりする。また、剽窃や盗用がないように論文の書き方については非常に厳しく指導され、細心の注意を払って取り組んだ。このように日本では強く意識してこなかった点をこの留学を経て意識をするようになった。

<日常生活>

日常生活において、イギリスという国柄もあり非常に多様で人種も様々であった。そのため、寮などではお互い理解し合うことが大切だと改めて実感した。幸い学内では、かなり人種が多様であるため特に目立つわけでもなく、また人種差別など受けなかったけれど、学外では受けることもあったため、人種差別などに負けないくらいタフになることができたと思う。また、英語に関しては日本で学んだ英語だけでは全く太刀打ちできず、最初は想像以上にコミュニケーションが取れなかったことにショックを受けていたが、しっかり現地学生とコミュニケーションを取ったり、分からなかったら聞き返したりととにかく分かるまで聞くことを繰り返すことで次第に慣れることができた。多くのこと挑戦したり積極的に活動したりすることができたと思う。

文化的な面では、日本人と似ている部分があるなと感じた。人との付き合い方や距離の取り方、また列に並ぶ習慣があるなど一般的に想像されるような外国人の習慣に当てはまる部分と当てはまらない部分があるため非常に興味深かった。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

留学を通して、新たな目標が2つできた。

一つ目は、留学での経験を将来に活かすことだ。具体的には、卒業論文の執筆と大学卒業後の大学院での研究に活かすことだ。留学中に行いたかったことの一つにメディア学を学ぶことがあり、メディア学に関する授業を多く受講し無事に基礎から発展まで学ぶことができた。そのため、そこで得た知識を基に卒業論文の執筆を進めていきたい。また、現在大学院進学を希望しているため、メディアに関する研究を行うためにさらに勉強を進め専門を身に付けたい。

二つ目は、英語力のさらなる向上のために勉強を続けることだ。留学して、以前よりは英語を楽しめるようになったものの、まだまだ学術的な英語力や実践的な英語力は不足しているため、今の英語力を維持するためにそしてさらに向上させるために勉強を続けていきたい。また実際に英語の外部試験を受験したりして英語力向上に繋げたい。そして、英語力を活かせるような仕事に携われるように努力する。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

大学生という時期に留学させてもらったことを本当に感謝しています。海外で過ごす目的は留学以外にも様々ありますが私は勉強に真剣に取り組める交換留学という形で行けてよかったと思います。もちろん海外の大学だからといって全員が勉強を熱心に行っているとは言い難いですが、圧倒的に勉強に対する姿勢や意識が違っているように感じました。日本では得られない多くの刺激を受ける良いチャンスだと思います。また、自分から行動しそこで得た繋がりをぜひ大切にしてください。私自身、最初の1・2ヶ月ごろは覚悟をしていた以上に英語ができず、現地の友達を作ることを躊躇していましたが、話しかけ自分から動くことで想像以上に皆優しく分かりやすく話してくれたり理解してくれようとしてくれます。そして、留学先での出会いはきっと今後の自分を成長させてくれると思うので大切にしてください。

(あくまで主観ですがイギリスの場合、イギリス人は友達になるまではかなり距離があり時間がかかりますが、一度仲良くなるとその仲を本当に大切にしてくれます。日本人と似ている部分があるなという印象です)

留学中は、言語に集中したく日本語を喋る機会は意識的に減らす方もいるかもしれませんが、どうしてもずっと英語などの母語以外を話していると疲れるので息抜き感覚でぜひ家族や友達と電話をしてリラックスしてください。また、現地で出会う日本人との関わりをやめた方が良いという人もいますが、同じ異国の地で戦う仲間なので全てを遮断せずぜひ協力して長い留学期間を乗り越えてください。

色々な壁にぶち当たることもあると思いますが、なんとかなるのでとにかくがむしゃらに食欲に頑張ってください。